

# 内臓のモビライゼーション臨床報告 7～8月度 (2018)

## 【腎臓】

患者氏名	日付	施術部位	効果	詳細
K.Wさん 86歳 女性	8/14	腎臓	左下肢 筋力低下 ○	軽度麻痺側の左下肢は、重だるさが強く挙上はわずかに可能。腸腰筋テストで、左下肢の空中支持が全くできず、筋力弱化的判定。モビライゼーション後、短時間ではあるが空中支持が行えた。
	8/21	腎臓	左下肢 筋力低下 ○	歩行時、左下肢の重だるさが強いため、頻りに足を床面に擦るようにして歩いていた。腎臓施術後、片脚支持のバランス安定がみられ、さらに歩行で左足を上げられるようになっていた。
	8/28	腎臓	左下肢 筋力低下 ○	起居動作や寝返りはスムーズに行えているが、左下肢の空中支持はできず落下。特に腸骨筋が弱化的な様子。施術後、空中での支持がわずかに可能になったが、立位での安定さは変化なし。
A.Yさん 92歳 男性	7/31	腎臓	右下肢 重だるさ ○	歩行で常に右下肢の重だるさあり。歩行持続困難。腸腰筋テストで、右下肢の筋力弱化的あり。空中支持は可能だが、重さが強く下肢が揺らいでいる。施術後、重さが軽減し、安定感が増した。
	8/7	腎臓	右下肢 重だるさ △	腸腰筋テストで右下肢弱化的陽性。施術により、外側挙上での支持力改善がみられ、本人実感もありました。下肢全体の筋緊張については改善はみられませんでした。
K.Tさん 86歳 男性	7/27	腎臓	左半身 過緊張 ○	左背部、大腿部、下腿に過緊張あり。仰向け姿勢では、背部に触れるだけで痛みが発生する。腸腰筋テストは異常なし。腎臓疾患あり。施術後、背部、大腿部の緊張低減し、同じ圧での痛みが消失。
	8/3	腎臓	左半身 過緊張 ○	前回の施術効果が残っているようで、背部の緊張が軽減した状態です。施術前でも、左背部に触れても痛みはありませんでした。施術後はさらに緩和していました。
	8/10	腎臓	左半身 過緊張 ○	引き続き背部緊張は緩和していて、さらに左大腿部の緊張も緩和。軽い圧では痛みなし。端座位でみられた体幹の左傾きの程度も軽減している。本人による緩和の実感はあまりないそうです。
T.Kさん 90歳 男性	7/31	腎臓	左下肢 重だるさ △	立位は安定しているが、左脚支持での片足立ちバランスは不安定さがあり。腸腰筋テストでは陽性。腎臓への施術を実施するも効果はみられず、重だるさが続いています。
	8/7	腎臓	左下肢 重だるさ △	腸腰筋テストでは、左側が弱化的陽性。腎臓施術行うも、効果はみられなかったものの、施術側の大腿部の緊張を低減する働きがあるようです。
	8/14	腎臓	左下肢 重だるさ ○	立位、片足立ちでのバランスに不安定さがややみられました。施術後に腸腰筋テストでの支持力が改善がみられ、立位でのバランス改善もみられ、以前のように軽度動揺することもありませんでした。

○：一定の効果、実感あり

2→1：施術前後の痛みの変化（本人にとっての最大痛値を5に設定）

△：効果の本人実感があまりない

腸腰筋テスト：仰向けで、検査側下肢を伸展位でやや外側と内側に挙上する

## その他 臨床報告

### 「効果がみられなかった症例」

腎臓へのモビライゼーション施術において、効果ができなかった症例はいくつかあります。所見では効果がみられたものの、本人の改善実感がなかった症例。所見も、本人実感のいずれも効果が現れなかったもの。前者は、今回の考察からは除外します。

腸腰筋テストでは陽性だったものの、効果が出なかった理由として考えられるのは、間違った施術をしていた。または腎臓が原因ではなかった。のいずれかが考えられます。脊柱、骨盤の可動性や腹筋力などが可能性として考えられますが、実際にこういった場合に効果を得たのは、直接腸腰筋に刺激を入れて施術を行うことでした。腸腰筋が弱化しているから、必ず腎臓に原因がある。と安易に考えるのではなく、腸腰筋そのもの、または他に原因がある可能性も考慮しつつ施術に臨む重要性を感じました。

## 考察

上記考察でも述べていますが、腎臓のモビライゼーションによって、関連症状の治療が必ずできると考えることは、治療の選択肢の幅を狭めてしまうことで、必ずしも良い結果を出さないことがあります。この技術の指導者は「内臓治療が必ずしも第一選択肢とはならない」と述べています。他の治療方法を実践し、その補助的な役割を担うという位置付けの治療法として、腎臓のモビライゼーションがあると考えることが、円滑な治療を行えると考えます。

臓器も常に動いている。屈む、反る、捻るなどの身体の動作に合わせて内臓も動きます。その他、安静時でも臓器は一定の動きをしている。その動きが障害されると、臓器そのもの、またはその関連筋の動作不良に繋がる。内臓モビライゼーションによって、その障害された臓器本来の動きを取り戻す。この考え方のもと、腎臓も含め、様々な臓器のモビライゼーション治療が存在します。

興味深かったのは、腸腰筋テストは陰性でも、腎臓モビライゼーションによって股関節、大腿部周囲の緊張が緩和する症例がいくつもみられたことです。可能性として、腎臓の動作不良によって、筋以外にも周囲の組織に緊張を生み、さらなる動作不良を引き起こしているのではないかと考えられます。

腎臓モビライゼーションは、指導を受けた範囲では2通りあります。直接、腎臓に触れる位置まで指を押し込み、モビライゼーションを行う方法。もう一つは、内臓神経反射を利用し、所定の皮膚表面を軽く圧迫し、腎臓の活性化を促す方法。前者は、効果が大きい反面、直接触れる高い技量が必須の上、圧迫がある程度強いいため被験者に少々の痛みを与える可能性があること。後者の施術は、痛みは一切なくソフトな刺激で難しい技術も不要であること。直接法に比べ、効果はやや落ちるようですが、それでも明確な効果を出せています。多くの施術者に技術を伝える場合、後者の方法を採用した方が安全面でも、効果の面でも有効と考えます。

今回、内臓治療を採用したおかげで、治療の選択肢がとても幅広くなりました。腎臓モビライゼーションの技術を最大限生かすため、この治療を第一選択とすべきか、補助選択として使用するか。正しい知識とそれを生かす思考力が重要となってくると考えます。